



第 52 号
平成 25 年 8 月
発行 NPO 法人小野川と佐原の町並みを考える会 佐原町並み保存会
お問い合わせ 佐原町並み交流館
電話 0478(52)1000

地元画家手描きの妙の「粹と張り」 —お宝発見！佐原の大祭のポスター—展—

大正十五年のポスター

夏の祭りに先立つ六月十一日(二七日、佐原町並み交流館にて「今・昔佐原の大祭ポスター—展」が開かれ、市民や遠く房総鴨川などからも見学者が訪れた。展示作品の内、柴山英雄氏による大正十五年秋九月のポスターは第一級品。大祭前日二四日の山車の繰出、汽船の増発等、当時の佐原を知る情報が書き込まれていて、大変興味深い。



大正15年(1926)秋 柴山英雄 画

展示された手描きポスターの作者は、柴山英雄、高根秀雄、菅澤幸司、菅井喜平、石橋武治、高木重雄、柴田祐作など。

菅井喜平(91)さんの話

「下新宿の浦嶋を描きに先代与倉屋さんの所へ何度も通った。浦嶋は人形が大きいし顔が気に入っていた。武者人形が多い時代に、少し力を抜いて、かしまらないものも作られていたのはいいな」



昭和44年(1969)夏 菅澤幸司 画

手描きポスターが消えて

ポスターに写真が使用されたのは、新宿区が昭和四九年秋、本宿区が昭和五十年七月夏から。地元の画家の手描きポスターには、写真では味わえない佐原の空気が感じられ、保存の意義は大きい。

手描きポスターを収集・保存しているのは、佐原町並み交流館長の小林和男さん。

小林和男さんの話

三十年位前、ふとポスター収集を思いたち、市と観光協会に問い合わせたが「保存はしていない」との返事。十年位以前のはすぐに確保できたが、その先の収集は順



昭和46年(1971)秋 菅井喜平 画

調でなかった。各町内の「お祭好き」の人たちに当たりをつけて、説得して譲ってもらった。

続々と第一級品が

一度「三菱館」でポスター展を開催した際、柴山英雄氏の息子英一郎さんが「ぜひ保存してほしい」と父親英雄氏のポスター原画等を携えて訪ねて来た。

その中に、柴山英雄氏の描いた大正十五年秋の大祭ポスターがあった。また地元の水彩画家で日展参与の柴田祐作氏の作品もあった。(二面で特集)

収集家として思うこと

小林さんは語る。「収集には多くの人たちのご協力があり、大変感謝しております。手描きのポスターには祭りに対する佐原の人の「粹と張り」が良く表現されている。それが佐原の大祭の醍醐味。

娯楽の少なかった時代の佐原の人の祭にかける町民の思いが強く感じられる。』

第九期「定期総会」

NPO 法人「小野川と佐原の町並みを考える会」の定期総会は、五月二三日(木)午後五時より佐原町並み交流館二階「多目的室」で行われ、提出議題はすべて承認された。

また「認定NPO 法人」に移行準備のために「入会金及び会費等に関する内部規定」が変更された。

定例運営会議は第三月曜

六月より第三月曜日午後七時より町並み交流館内で定例運営会議を開いている。前月の事業報告と次の月の計画等について議論している。会員の参加は自由。

電線地中化工事始まる

七月二日(月)より新宿区小野川沿い、忠敬橋から開運橋までの間の電線地中化の工事が始まった。電気通信線の中継点となる十二個の穴の掘削とその間の溝を掘る。完成は来年三月。

平成25年度 交流館の入場者

()内は昨年度数

| | | |
|----|--------|----------|
| 4月 | 4,397 | (4,460) |
| 5月 | 7,657 | (6,974) |
| 6月 | 12,153 | (10,975) |
| 7月 | 23,046 | (22,222) |

あやめ期6月、佐原の大祭を含む7月は昨期を上回る。

上仲宿区山車人形「鎮西八郎為朝」秋の大祭(昭和38年)ポスター

水彩画壇の至宝 柴田祐作画伯が描いた佐原大祭大人形

—緑地に黒線一本の勢い見せる若き日のきらめき—

「鎮西八郎為朝」制作の思い出

昭和三八年、当時の水郷佐原観光協会から依頼があり、また地元の富士印刷会社からは「二色で描いてほしい」とも言



昭和38年(1963)秋 柴田祐作画

われた。あの時はちょっと困った。赤が使えなかった。

でも、当時私は三十代、佐原ではまだまだ「小僧っ子」だったの

で文句も言えないものだから「何とかやります」と引き受けた。佐原の大祭の原画は、地元の家たちによって描かれ続けてきたが、昭和三八年頃はみな私の先輩ばかり。柴山英雄さんや山本不二夫さんなど、私の親と年齢が同じ。上仲宿区の大人形「鎮西八郎為朝」は先輩方からは大変好かれていた。「為朝」は明治十五年の鼠屋福田万吉の作。昔の飾り物はみんな良い。浦島も良いね。為朝は「きりっとした侍」の感じが良く出ていると思う。自分ながら、このポスターは良く出来ていると思う。

生い立ちと修行時代

柴田祐作さんは、大正十四年生まれ。小学校の頃は羽生先生に見てもらい子供展等に出品した。また、担任が習字の先生だったので書道にも興味があり「書道で身を立てる」ように親には言われていた。

戦争時代は十代、将来絵をやるには言い出せずにいた。終戦直後二十一年、二年、佐原小学校の恩師で絵を見てもらっていた佐原女子高等学校の美術教師の大崎善生先生に東京・高砂にある小堀進先生宅に連れて行かれた。

小堀先生の第一声は「沢山描きなさい。」絵を十点ほど丸めて行くと「君、やたらに描いてもだめだよ。」

当時は機械工場の職工。二四歳で建設省に

入り、やっと落ち着いて絵を描けるようになり、その年に日展初入選を果たした。

油絵を選ばなかったのは画材が高かったからで、小学校時代の粗末な画材を使っていた。ポスターを描いた頃は、まだ建設省の時代。

昭和四五年に退職して、水郷にこたわって描き続けたが「他人の家が描いてある絵を自分の家には飾れないよ」と絵はまったく売れなかった。



柴田祐作さん(左)と小林和男さん(右)

昭和四十年に岡田(三郎助)賞

昭和五十年に日展特選

昭和六三年から日展審査員

現在は日展参与、白日会顧問。

平成25年度交流館ホール展示

十二月二十八日～一月三十一日

佐原・町並みお正月

十二月十九日～一月十六日

絵になる佐原絵画コンクール

一月十七日～三十一日

佐原高校写真部書道部展

二月九日～四月十四日

さわら雛めぐり

四月二十日～五月十九日

第八回・佐原五月人形めぐり

五月二日～六月二日

中学生カメラマン・佐原を写す

六月六日～九日

日本盆栽協会・水郷佐原支部

十一月～二十七日

佐原大祭ポスター展

二九日～七月二日

第七回・佐原の光景写真展

七月二十八日 身近にお茶を楽しむ会

八月十一日～九月一日

魚谷幸子水彩展(佐原との出会い・復興への願いを込めて)

九月八日 軒先コンサート

十日～十三日 佐原の全町扇子展

二十八日～十月二十日 第四回北澤

聖江展(佐原の大祭・母と子と)

十月二三日～二七日 盆栽展

十一月一日～二四日 色鉛筆で描く

佐原の街並み 古河博章展

二五日～八日 ドールハウス展・

ミニチュアフード展

十二月十二日～十五日

日本盆栽協会水郷支部

十六日～二六日 佐原の観光と祭り・写真コンクール・パネル展

小野川護岸に使われた銚子石

銚子市の愛宕山から切り出された

佐原の中心を東西に分けて流れる小野川付近は、古代は「香取の海」の打寄せる波音が聞こえるのかな入り江であったと思われる。

徐々に埋め立てが進んで流れが整えられ、両岸に家が立ち並ぶようになると、土を運び込みしっかりと道を作るためには護岸を整える必要が起った。最初、木の杭を立てて横に板を差込んで土を抑えていたが、大正二年から十五年にかけて積

石護岸工事が行われた。江戸城に使われた伊豆石などがあるが、北総地帯に産する石といえは銚子石であった。

銚子石とは

銚子市天王台にある「満願寺」のある所は、かつては通称高神愛宕山といわれる標高七三・六



▶再生された銚子石護岸



▶一〇〇年を経て生き返った銚子石

米の銚子市最高峰の山で、千葉県で最も古い「愛宕山層群」という銚子半島の基盤をなす「高神礫岩（石灰質、泥質、砂質の粒子が固まった礫）」、通称「銚子石」、硬い凝灰（ぎょうかい）岩質砂岩を産出した。今の「満願寺」は石置き場であった。

（灯台の真下の義経伝説で「馬糞沼」と呼ばれる場所が銚子石のもう一つの石切場であった）色調は、黄褐色で粒子は均一で、軟質なので加工しやすい。め、古代には横穴式石室、戦国時代以降は石塔や供養塔等に使用されたという。

銚子の愛宕山

「銚子石」を切り出した犬吠崎灯台の下、「馬糞沼」は危険なので立ち入り禁止。



愛宕山の岩肌

また、山の半分ほどを切り崩してしまった愛宕山の頂上には現在、「地球の丸く見え丘」がある。

五千坪余という広い石置き場の跡地には、昭和四六年「満願寺」（飯沼観音）の本堂が建立された。

今でも石を切り出した跡の岩肌が荘厳華麗な朱色の「満願寺」を抱くように壮大な屏風のように堂々とそそり立っている。

猛暑を吹き飛ばし

夏の大会に三十五万人

七月十二、十三、十四日に行われた夏の佐原の大会は三日間晴天に恵まれ、市発表三五万人と大震災前に匹敵する人出があった。



夏の大会に備えて小野川清掃 (六月二十日・木)



町並みを歩いて(その八)

重伝建地区の隠れた魅力を発掘

小野川の「だし」

小野川の両岸には地元で「だし」と呼ばれる、道路から水辺へ下りる階段が数ヶ所ある。

階段の先に突き出た幅一米ほどの板敷きを指して「だし」という。出す＝出しの語感からではないか。例外は「正上」前の御影石の「だし」。階段は大谷石で大変風格がある。

佐原の最盛期には、本宿側に七一、新宿側に七八、計一四九箇所もあった。各商店の荷物を積み下ろす場所でもあり、共用のものや川沿いがない地区のた

めの「だし」もあった。

戦後、台風のと きなど水嵩が



堂々と風格を見せる「正上」前の「だし」

増すと沢山のゴミが流れてきて「だし」が流れを阻害するので取り壊された。

現在は、小野川へ下りられる「だし」は、上流から数えるとまず「きめらお休み処」前と忠敬旧宅前の二ヶ所。忠敬橋から成田線鉄橋の間に六ヶ所。成田線鉄橋から国道三五六線架かる北賑橋間に一ヶ所の八ヶ所だけ。成田線鉄橋を越えると小野川排水機場の間に十四ヶ所の小階段がある。生活の用のための階段であったらうか。

鉄橋を越えると川幅も広くなる。この辺には、舟をつないでおく「船入場」のための入りくんだ地形があり、かつては船頭が多く住んでいたという。舟戸という地名が残っている。

町並み案内(その十三)

案内班、月一回の定例会議

—— 毎回九十%以上の出席率で ——



7月会議の様子

会議は、まず先月の反省から入り、色々な案内の経験から、困ったこと・伝えておきたいことなどを一人一人が発表する。続いて、それぞれ個人の日程に従い、希望を優先しながら、次の月の団体予約の案内当番を

観光案内に感謝の礼状 (その10)

小学生からの礼状

小学四年生の総合学習で佐原へやってきた子供たちから、観光ガイド宛てに工夫をこらした礼状が届きます。(下の写真)

佐原の町並みや伊能忠敬の人生から学んだことが、どのように生かされていくかに注目しながら私達は礼状を読みます。

夏休みには、多数の先生方が下見に交流館を訪れ、「案内班」の説明を聞き、秋の学習に備えています。



米国からのお客様

先日(六月六日)は、米国からのお嬢さん二人に対し、懇切丁寧なガイドをしていただき誠にありがとうございました。

二人は、この外喜ぶと共に、佐原の歴史およびそのたたずまいに感動している様子でした。初めての外国旅行の第一歩が、佐原であったことは、まったくの幸運であったようです。

その際の写真ができましたので同封いたします。(下の写真)
(千葉県若葉区若葉台
・S氏ご夫妻)



決定し、最後に週五行っている「佐原町並み交流館」内での「三菱館」の説明や「交流館」及び佐原の町の歴史や観光案内の説明をする担当を決める。

さらに案内の充実をめざし、小学生の総合学習案内をスムーズに手助けできるよう研鑽する年一回程度の「案内研修」も行う。

今年の夏休み、八月五日(月)午前九時半～十二時の間、白楊高校生徒二名と教員を対象にした研修会も行った。

班長の越川悦子さんを中心に、吉田昌司さんの良き助言を得て、「案内班」は順調に案内活動を続けています。